

本号のテーマ：「メディアとの上手な付き合い方」

現在の社会では、インターネットやスマートフォンなどが我々大人は勿論、多くの小学生や中学生にも日常的に使われています。そのため、人によっては自宅学習の時間が大幅に減少し、教育委員会の調査によると、電子メディアの使用時間と成績低下には強い関連が認められ、使用時間が長いほど学力の低下を招く傾向が顕著となっています。

このような状況の中、10月27日に東御市で長野県市町村教育委員会研修総会が開催され、開会式後の分散会で佐久市教育委員会は「情報化社会にあって、主体的に生きる子どもたちを支える教育委員会の役割」と題し、榎澤晴樹教育長が以下の5つの項目に分けて発表を行いました。

- 1 佐久市の教育がめざすもの ～佐久市の教育ビジョン2017から～
- 2 「Saku Kids メディア safety」立ち上げのきっかけと教育委員会の支援
- 3 「Saku Kids メディア safety」の目的・取組について
～学校、家庭、子どもの主体性を大切に～
- 4 子ども自ら動き出した「メディアとの上手な付き合い方」の取組
～主体的・創造的に生きる子どもの姿～
- 5 成果と課題



〔分散会での発表の様子〕

分散会出席者の他市町村教育委員の皆様も、この大きな問題について大変熱心に聞き入り、発表後に多くの質問がありました。

佐久市教育委員会ではこの問題に対し、県下でもいち早く取り組み、「家庭、学校、地域が連携し子ども自らが考えるメディアとの上手な付き合い方」を大事にしています。

「教育委員会の動きなど」

1 モンゴル国スフバートル区子ども交流研修

11月3日にモンゴル国ウランバートル市スフバートル区の中学生7人が、佐久市に到着し、11月10日まで滞在しました。

滞在中は市内の学校訪問をしたり、日本の文化である三味線を体験したり下水道施設の見学をしたりしました。



〔三味線を体験するモンゴルの中学生〕

これは、両国の子どもたちが、毎年互いに行き来して交流する人材育成事業で、佐久市の中学生も8月にモンゴルを訪問し、様々な貴重な経験をしました。

2 長野県こども新聞コンクール

11月18日付けの信濃毎日新聞別冊で第18回県こども新聞コンクールの入賞入選作品が掲載されました。

佐久市からは、泉小学校5年中島秀悟さんの「未来へつなぐ中部横断新聞」と中込小学校6年林良飛さんの「中山道新聞」が奨励賞に選ばれ、他に岸野小学校5年橋詰いくさん、岩村田小学校5年工藤千聖さん、中佐都小学校5年田中優羽さん、中込小学校5年小金沢真央さん、泉小学校6年山口ゆい乃さん、泉小学校6年臼田桃花さん、望月小学校6年江本和弥さんの7新聞が入賞しました。入賞入選はもちろん素晴らしいことですが、惜しくも入賞できなかった新聞も皆それぞれ素晴らしい新聞だと思います。

賞をいただくことだけでなく、自分の手で新聞を作り上げたということが、将来きっと自分の役に立ち、もしかしたら新聞記者になる人がいるかもしれませんね。

3 佐久市青少年健全育成市民集会

11月19日に佐久市と佐久市教育委員会主催による青少年健全育成市民集会が行われました。この集会の趣旨は「青少年は地域社会からはぐくむ」という観点に立ち、青少年をいちばん身近で支える家庭・学校・地域の皆さんが一堂に会して青少年健全育成について考えるというものです。

集会の中で経済的理由で修学が難しい市内の若者向けに返済の必要がない奨学金として4億円を佐久市に寄付していただいた漫画「北斗の拳」の原作者で知られる佐久市出身のペンネーム武論尊さんの講演がありました。



〔講演する武論尊さん〕

武論尊さんは奨学金のほか、漫画の世界に入りたくてもきっかけがないと関わるのが難しい現実があることから、漫画の無料の塾「武論尊100時間漫画塾」を4月に開講すると発表しています。

講演の中で武論尊さんは、「早い段階で挫折を経験し、自分の弱さときちんと正対できることが強く成長することに繋がるのではないか。この社会は不公平な社会である。この社会に負けないように育てて欲しい。」と子どもたちへのエールを送ってくださいました。